令和７年８月２０日発行
青森県上北農林水産事務所農業普及振興室

# だ い ず 通 信　　令和7年 第3号

**連作ほ場ではマメシンクイガの防除は２回実施しましょう。**

**２回防除の場合は、１回目が８月第５半旬頃、２回目はその１週間後が適期です。**

**１回防除の場合は、８月第６半旬から９月第１半旬が適期です。**

## １　生育状況

・気温は平年より高く推移した。日照時間は、７月第１半旬及び８月第２半旬を除き、平年を上回った。降水量は、６月第６半旬及び７月第１半旬、８月第１半旬から第２半旬にまとまった雨があったものの、それ以外はかなり少雨であった。

・県生育観測ほの開花期は、７月 23 日と平年より６日早かった。８月８日時点の生育は、草丈が平年よりかなり長く、葉数が平年並であった。晩播狭畦栽培では、ほ場の一部で倒伏がみられる。

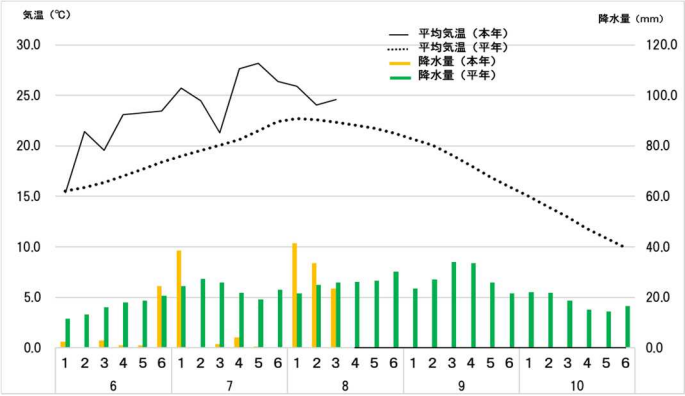


図-１　平均気温と降水量

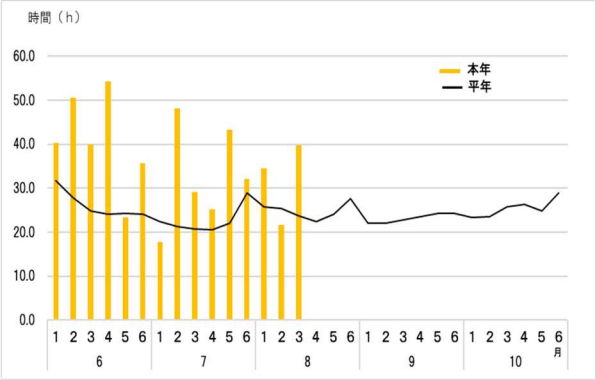


図-２　日照時間

## 生育調査結果

| 地点名 | 年度 | 生育ステージ | | | | 出芽本数 | 8月8日 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | は種期 | 出芽期 | 開花期 | 成熟期 | （本/㎡） | 草丈（cm） | 葉数（枚） |
| 県生観 | 本年 | 6月5日 | 6月14日 | 7月23日 | | 19.5 | 111.4 | 13.3 |
| 十和田市 | 平年 | 6月1日 | 6月10日 | 7月29日 | 10月12日 | 17.3 | 92.4 | 13.3 |
| 赤　沼 | 差・比 | 遅４日 | 遅４日 | 早６日 | | 113 | 121 | 100 |
| 晩播狭畦 | 本年 | 6月18日 | 6月23日 | 8月3日 | | 24.3 | 105.6 | 12.4 |
| 七戸町 | 平年 | 6月25日 | 7月2日 | 8月9日 | 10月19日 | 27.6 | 71.3 | 10.7 |
| 船場向川原久保 | 差・比 | 早７日 | 早8日 | 早６日 | | 88 | 148 | 116 |

平年値　県生育観測ほ：令和22年～令和６年、晩播狭畦：平成28年～令和６年

## ２　病害虫防除

・マメシンクイガはだいずを連作したほ場で多発するので、連作ほ場では２回防除を行う。

【２回防除の場合】１回目は　８月第５半旬頃、２回目はその１週間後
【１回防除の場合】８月第６半旬～９月第１半旬１回

・カメムシ類の防除は、１回目のマメシンクイガ防除時にカメムシ類にも登録のある薬剤を散布する。

・紫斑病は開花後 20～40 日を目安に薬剤散布を行う。マメシンクイガとの同時防除が可能である。

・薬剤耐性菌や薬剤抵抗性害虫の発生を抑えるため、２回防除の場合、１回目の散布と２回目の散布で薬剤の種類を変える。１回防除の場合は、使用薬剤を毎年変更する。

（参考）マメシンクイガ・カメムシ類・紫斑病に登録のある薬剤

| 薬剤名 | 適用病害虫 | | | 希釈倍数 | 使用時期 | 使用回数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | ﾏﾒｼﾝｸｲｶﾞ | ｶﾒﾑｼ類 | 紫斑病 | | | |
| トレボン乳剤 | ○ | ○ | | 1000倍 | 収穫14日前まで | ２回以内 |
| パーマチオン水和剤 | ○ | ○ | | 1000～2000倍 | 収穫21日前まで | ３回以内 |
| アディオン乳剤 | ○ | ○ | | 3000倍 | 収穫７日前まで | ３回以内 |
| | | ― | | 24倍を0.8ℓ/10a 無人航空機散布 | | |
| プレバソンフロアブル５ | ○ | ― | | 4000倍 | 収穫７日前まで | ２回以内 |
| | | | | 16～32倍を0.8ℓ/10a 無人航空機散布 | | |
| ファンタジスタフロアブル | | | ○ | 1000～2000倍 | 収穫７日前まで | ３回以内 |
| | | | | 16倍を0.8ℓ/10a 無人航空機散布 | | |
| プランダム乳剤25 | | | ○ | 3000～5000倍 | 開花後～収穫７日前まで | ２回以内 |
| | | | | 16～24倍を0.8ℓ/10a 無人ヘリコプター散布 | | |
| ゲッター水和剤 | | | ○ | 1,000培 | 収穫14日前まで | 3回以内 |
| アミスター20フロアブル | | | ○ | 2000～3000倍 | 収穫７日前まで | ２回以内 |
| | | | | 16～24倍を0.8ℓ/10a 無人航空機散布 | | |

※ゲッター水和剤及びアミスター20 フロアブルは、耐性菌の発生が確認されており、連用で効果が低下するため、隔年使用に努める。